世田谷区立給田小学校
学校運営委員会通信

コミュニケーション力を育てる
～さまざまな場面での「対話」を大切にして～

11月14日、校長室にて第7回学校運営委員会が行われました。

今回は、本日より開催されている展覧会を見学してからの委員会となりました。委員からは「古民家など給田小らしいテーマもあり良かった」など、子どもたちの力作への感想が述べられました。

続いて、杉山校長より、学校の近況について4点報告がありました。「①10月31日に就学時健診が行われ、来年度の1年生も5クラスになる予定である。②世田谷区の小学生海外派遣事業で、5年の若林君が11月2日から9日にオーストリア・ウイーン市などを訪問した。本校の安部主幹も引率し、現地の小学生や学校関係者と交流を深めた。③昭和女子大学の学生3名、日本女子体育大学の学生4名が学級に入り、ボランティアをしてくれている。④本年度のサマースクールで子どもたちに読書感想文の書き方を教えてくださった稲井達也先生（日本女子大学教授）が若手教員の授業研究の指導もしてくださることになった。」

次に、安部主幹からあいさつ運動に関して「今学期から毎週水曜日と土曜登校日の朝に1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生で兄弟クラスを作り（6年1組と1年1組というふうに）、順番に正門と北門に立ってあいさつをしている。その成果なのか、校門・北門以外の場所で交わされるあいさつも、他の日より元気を感じる」との報告がありました。また、「海外派遣事業でオーストリアを訪れた際に、コミュニケーションの力は国籍に因るものではないと改めて感じた。現地での交流で感じたこと学んだことを給田小の子どもたちにも還元したい」との感想もありました。

続いて、清水委員より「PTAと学校運営委員会との連携を深めていくためにはどうすればいいか」との以前からの懸案について話がありました。井上委員長からは「運営委員会はPTAに指示する立場ではないので、一緒に考えることができる場や方法を考えてもらいたい。そのためにも、月に1回の委員会だけでなく、ワーキンググループでも検討してほしい。さまざまな立場の人が話し合うことで問題点が明らかになり、解決の糸口も見えてくるはず。また、そうした問題点や経緯についても、通信で伝えていくとともに記録に残すことが大切」との助言がありました。

最後に、リエゾン・オフィスより、Q-denWalkerについて、「今年度は、たくさんの保護者から引率の申し出があった。普段行けないようなところに行き、子どもたちと一緒に話が聞けて楽しかった、との声も聞いた。今年は諸事情により、自分の子どものいる班の付き添いになってしまった方もいたが、親子で同じ体験をしたことで、家庭でも話題にできたという利点もあることが改めてわかった。どのようなやり方がいいのか、来年以降も考えていきたい」などの報告がありました。

議題

1. 校長より
   - 就学時健診について
   - 海外派遣事業の報告
   - 大学生によるボランティアの状況
   - 教員の授業研究について
2. 安部主幹より
   - あいさつ運動について
3. 委員より
   - PTAとの連携について
4. リエゾン・オフィスより
   - Q-den Walkerの報告

出席者
井上、清水、田中、溝口、椿、林、杉山、片山、安部
リエゾン・オフィス

平成25年度 第6号
平成25年12月2日
世田谷区立給田小学校
学校運営委員会
委員長　井上健

5年生のお兄さん・お姉さん、ありがとう「ソーラン節」かっこよく踊れたよ！

親子で絞り柄をつけ、染め上げたソーランTシャツは毎年恒例です。

「ドドン！」と杉山園長先生が叩く大太鼓の音が園庭に響きわたると、大漁旗を持ったもも組とたけ組の2人が走り出して行きます。

続いて「年長組、頑張るぞー！」「エイ・エイ・オー！」元気良く飛び出して行く園児たち。さぁ、いよいよ「キッズソーラン・2013」の始まりです。

10月13日、晴れわたった青空の下、給田幼稚園の運動会が行われました。昨年の運動会で初めて目にした「ソーラン節」を自分たちが踊る番です。

年長さんのかっこよさに憧れ、見よう見まねで踊っていた年少の時。そんな園児たちに転機が訪れました。今年の5月、給田小に5年生が踊る「ソーラン節」を見学に行き、自分たちの踊りとは全く違った迫力ある踊りに釘付けになりました。

（学校運営委員会通信H25年度2号掲載）

2学期に入り、本格的に給田小の5年生から教えてもらうことになりました。「ソーランは、ニシンという魚を捕るための踊りなんだよ」と聞き、構えのポーズ、網を引く・魚を後ろへ投げる・舟を漕ぐなど、動作の意味を教えてもらったことで、振り一つ一つの大切さが分かったようでした。ぐっと腰を落とさなければならなかったり、後ろに腕を振る時は顔や目線もしっかり後ろに向けることなど、5年生が優しく手取り足取り教えてくれました。

その後も練習を重ね迎えた運動会当日。ソーランTシャツに着替えた子どもたちの顔は、やる気に溢れキリッとしていました。構えのポーズも練習を始めた頃とは比べものにならないほど様になっています。最初は固かった表情も踊っていくうちに笑顔が出始め、いつもの園児たちに戻っていきました。

5年生の担任の先生がたや5年生も見守る中、踊り終えると会場からは拍手喝采。「かっこよく踊れていたかな」「ドキドキして震えちゃった」「上手に踊れたよ」…と興奮気味の子どもたちに、担任の先生が「大成功！」と声をかけると輝いた目は達成感に溢れていました。

運動会が終わって、普段の遊びの中で「ソーラン節」を踊る年少さんにアドバイスをする年長さんの姿はまるで5年生のようで微笑ましい光景です。幼稚園の時の記憶がどこまで残っているのかは疑問ですが、この子たちが5年後に教える側になった時に、憧れの5年生の姿が蘇るかもしれませんね。

5年生の先生がた。ビデオをセットする鶴岡先生

教えて！井上先生

前回は、「給田小の子どもたちと上祖師谷中（上中）、烏山中（烏中）の生徒との交流活動」という視点から「世田谷9年教育」について考えてみました。今回は、給田小ならではの取り組みについて先生がたにうかがいながら、「9年教育の今後」を考えてみたいと思います。

給田小では「コミュニケーション力の育成」を重点目標の1つに掲げ、校内研究が精力的に進められています。そのことは、「世田谷9年教育」の基盤とされる「ことばの力」に通じるところがあるように思われます。そこでまず、今年度の研究主任・榎本先生にお話をうかがいました。

榎本先生　給田小では、6年程前から授業に「ノートコミュニケーション」を取り入れてきました。これは、自分の考えをノートに書き込み、それを見せ合いながらお互いの考えを伝え、話し合っていく授業手法です。

これまでは国語に限らず取り組んでいましたが、今年度は国語に特化し、ノートコミュニケーションのステップアップ版として、「対話に力を入れた指導の工夫」を研究しています。例えば、高学年では、1つの主題に関して、同じ相手と1～2分間途切れずに対話できることを目標にしています。相手の話を聞くことで、もっと理解を高めることがねらいです。

お話をうかがっていて、5年生の「Q-denWalker」を思い出しました。子どもたちが地域の方と対話をしながら取材を進めていましたが、あれはまさに、そうした取り組みの実践の場となっていたのですね。

榎本先生　その通りです。対話をするためにはベースとなる知識力も必要なので、教員が望むところまで到達するのは難しいのですが、給田小での在任期間が長い教員からは「取り組みの成果を感じている」との報告を受けています。また、「コミュニケーション力の育成」は烏山学舎のテーマでもありますので、学び舎の教員で話し合いながら研究を進めています。

榎本先生、ありがとうございました。次に、給田小にいらして5年目になる、生活指導主幹の安部先生にもお話をうかがいます。

安部先生　コミュニケーションそのものが授業の目標ではありませんが、授業理解の手立ての1つにはなっていると思います。自分の考えを表現することは自己肯定感を生みますし、発言しやすい環境は子どもたちが安心できる環境でもあるので、学級経営にも繋がります。子どもたちをみていても授業で生まれたコミュニケーションが他の場面で生かされているといった相乗効果を感じます。

安部先生、ありがとうございました。最後に「世田谷9年教育」で行われることになった「子どもたちの学習状況の確認」について、給田小7年目、教務主幹の鶴岡先生にお話をしていただきます。

鶴岡先生　世田谷9年教育の学習習得確認調査は、給田小の5、6年生だけでなく、給田小を卒業して上中・烏中に進学した生徒たちの結果についても、それぞれの中学の先生と話し合い、課題を考察しています。給田小では、主体的に学んでいきいきと表現することを学習の目標としていますが、中学校では正確な知識理解が求められます。

このため、小学校と中学校では、授業のスタイルも変わってきます。そこだけを見ると、小学校と中学校の授業を繋げることは難しいかもしれませんね。けれど、お互いの授業を見学して情報を交換することで、小学校のうちに身につけさせたい力は何かが明確になってきます。中学校で求められる正確な知識や理解力を身につけるために、聞いて納得するだけでなく、人に説明できる力を子どもたちにつけさせたいと考えています。

鶴岡先生、ありがとうございました。最後に、井上先生、いかがでしょうか。

「9年教育」は、シンプルに言えば、「9年間の義務教育を終える時に、子どもたちがどんな力を身につけているのか」を念頭に、小・中学校（そして地域）での教育活動を考えることです。そのために、それぞれの学舎や地域でいろんな活動が試みられていますし、また、小・中の先生がたのさまざまな連携が進められています。ただ、給田小のように、2つの学舎に関わっている学校は、地理的環境等において恵まれている学校に比べると、やりにくいこともあるかもしれません。そうした意味では、児童・生徒の交流や教職員の連携や共同研究などでできることをやりながら、他方で、これまでに給田小がとり組んできた活動の成果を活かすような道を模索していくことが大切といえるでしょう。その点で、給田小が取り組んでいる「対話（コミュニケーション）を育てる指導」の話はたいへん興味深かったです。

考えてみれば、この「教えて！井上先生」という欄も、まさに「対話」ですね。3回（4～6号）にわたり「9年教育」がテーマでしたが、私だけでなく、いろんな先生との「対話」へと広がっていることも、大事にしていきたい「給田小らしさ」かもしれません。

就学時健診

待ち時間に絵本の読み聞かせをする5年生

10月31日、就学時健診に144名の未就学児が来校しました。5年生は受付、誘導、耳鼻科、眼科などに分かれてお世話係として大活躍。緊張気味の未就学児もお兄さん、お姉さんに優しく相手をしてもらって安心した様子でした。来年4月、ピカピカの1年生に会えるのが楽しみです。

給田小学校PTA研修会
地域防災を考える～私達に出来ること～

体育館のスクリーンに、災害発生から時間を追って被害状況などが映し出されます。

10月16日、給田小学校PTA研修会が学級代表委員会の主催で行われました。今年度のテーマは「地域防災を考える～私達に出来ること～」。保護者、先生、地域のみなさん、約200名が出席して、大規模災害が発生したと想定して、避難所設営までの流れをシミュレーションしました。

児童在校時に震度6強の首都直下地震が発生！地震発生直後に私たちは、どのように行動すればいいのか、給田小に地域の方が避難してくるとどういった状況になるか、などを時系列でスクリーンに映し出される画面を確認しながら、グループで話し合いました。

事前に保護者に対して行われたアンケートでは、世田谷区の防災無線が聞き取れた方が10％以下だったこと、給水所の場所がかなり遠いことなどの問題点も報告されました。大規模震災時の避難所開設の流れを知り、給田小にかかわる保護者を含む地域住民みんなが力を合わせていくことが必要なことを改めて確認する研修会となりました。

この研修会に向けて、地域防災についての資料を集め、勉強し、準備を進めてこられた委員長の**佐藤亜希子さん**にお話をうかがいました。

「昨年の12月に行われた『避難所運営訓練』に参加したことがきっかけで、このテーマに取り組みたいと考えました。『避難所運営訓練』は毎年行われていますが、参加は運営メンバーの給田町会・給田西住宅自治会・学校・PTA本部・お父さんの会『YAMATO』に限られています。たくさんの方に避難所への関心を高めていただき、この地域の防災についてみんなで考えることができればと思いました。

研修会当日は、台風26号による悪天候にもかかわらず多くの方がたに出席していただきました。学校・行政・地域の三者が顔を合わせて話す機会を持てたことは、大きな成果だったと思っています。」

地域防災の一端を担う消防団の方がPTA研修会に参加してくださったのも初めてのことです。成城消防団第4分団、副分団長の**池亀賢二さん**に研修会の感想をうかがいました。

地震発生直後にとる行動について解説する池亀賢二さん

「研修に参加させていただき、多くの保護者の方が地震に対する防災の意識を持っておられることがわかりました。大災害時はPTA、学校、地域団体との連携はとても重要です。今後さらに、誰もが的確な行動が取れるように知識や防災訓練を積み重ねていければ良いと思います」と研修会の感想を話されました。

まさに小学校が核となって行われる「避難所設営」。佐藤さんが最後におっしゃった「PTAも地域の一員として、防災の意識を高めていきましょう！」という力強い言葉が頼もしく感じられました。

4年生の社会科「昔しらべ」

10月31日（木）の3・4時間目、4年生の社会科「昔しらべ」の授業を行いました。ゲストティーチャーに千歳民俗資料保存会から会長の**麻生則行さん**と給田小の給食に野菜を提供してくださっている**浅野弘さん**をお迎えし、お話をうかがいました。

古民家の隣の「千歳民俗資料館」に収められている農具、民具の中から、「田舟」「ふりこみ機」「田草とり」などをランチルームに展示しました。これらの道具は全て昭和初期から昭和30年代くらいまでに実際に使われていたもので、麻生さん、浅野さんに使い方を教えていただきながら、その当時のエピソードやご苦労について語っていただきました。

51年前、給田小が建てられた時には、学校の周辺は田畑が広がっていて、この一帯の土地はとても肥えていたので、よい作物がたくさんとれたそうです。その反面、肥えすぎた水田では稲が徒長しすぎ、米の収穫量は通常一たん（300坪）の田んぼから10俵で豊作のところ、このあたりでは6～7俵しかとれなかったことや、大麦とさつまいもを連作することで収かく量を増やす工夫をしたことなども教えてくださいました。また竹林も多く、東京の西に位置する給田、烏山でとれた竹の子は「西山の竹の子」とよばれる高級品として珍重されていたそうです。

「人の糞尿が一番の肥やしだった」
「肥柄杓」の説明に驚きの声をあげる子どもたち

「昔の道具はみんな木でできているの？」という質問に、麻生さんが「昔の道具は手作りだったのでほとんどが木でできていました。プラスチックと違って木は手にしっくりと馴染みました」と答えられました。4年生担任の江口先生からは「昔を知ることは、これからを考えるために重要ですね」とお話がありました。

いきいきと語られる昔の町の様子や思い出話と、道具の扱い方や田の草取りの実演に、子どもたちは目を輝かせていました。大切に保存されてきた道具を目にしながら、昔の体験をじかに聞かせていただいたことは、子どもたちにとって貴重な学びとなりました。

当日、職場体験で給田小を訪れていた上祖師谷中の**金澤くん**（千歳小卒）、**中村さん**（給田小卒）のお二人にもお手伝いいただきました。

「中学校に入ると大変なので今のうちにいろいろな体験をしてほしい」「小学校のうちにしっかり勉強して、友人とたくさん話をしてほしい」と小学校生活や学びへのエールが送られました。

給田六所神社例大祭

10月26日（土）、27日（日）に給田六所神社例大祭が行われました。

27日午後1時、六所神社の境内から祭り囃子が聞こえてきました。「給田小子どもばやし」によるお囃子と獅子舞の奉納です。「給田小子どもばやし」は昭和53年の結成以来、34年に渡る活動を続けており、ここ六所神社での演奏も長年にわたり、給田小の子どもたちによって受け継がれています。

続いて、いよいよ大太鼓と子ども神輿の宮出しです。給田小開校50周年の記念行事に来ていただいた大太鼓をおぼえていらっしゃる方も多いのではないでしょうか。台車に乗った大太鼓の上に人が立つと信号機に届きそうな高さとなり、迫力ある姿です。お囃子の山車（だし）の先導で、大太鼓、お神輿が六所神社を出発しました。大太鼓を打ち鳴らしながら、旧甲州街道を烏山との境にある宍戸コンクリートまで行き、六所神社へと戻る巡行行程です。台車に乗った大太鼓は子どもたちによって引かれ、巡行が進むにつれてかわいらしい引き手の数はどんどん増えていきました。休憩所でふるまわれるお菓子や飲み物に子どもたちも大よろこびです。

途中、一行は池亀畳店前で止まりました。お店の前にご家族が並ぶ中、給田青穂会のみなさんが、今年3月に亡くなられた池亀哲也さんをしのんで『送り大鼓』を叩きました。長年給田町会でご尽力された故人を想い、太鼓の音が響き渡ります。

大太鼓巡行の一方、境内の神楽殿では、「給田小子どもばやし」のお囃子の演奏が止むことなく続けられていました。4時の宮入りにはお囃子に獅子舞も加わり、お神輿と大太鼓の神社到着でお祭りは最高潮を迎えました。「ドドーン・ドドーン」「ワッショイ・ワッショイ」「トコトン・トコトン」。給田の鎮守様のお祭りは、今年もたくさんの笑顔でしめくくられました。決して派手ではありませんが、給田に脈々と流れる地元の心を感じるほのぼのとしたお祭り。同じ旧甲州街道でも、商店街を渡御する烏山神社の賑やかなお神輿とはまた違った趣があります。来年、是非とも足を運んでみてはいかがでしょうか。

3年生の社会科「農家の仕事」

まだ芽が出たばかりの野菜には一つ一つ野菜の種類を書いた札を立ててくださいました。

「葉っぱの中にブロッコリーが入ってる！」「スーパーで売っている野菜しか見たことのない子どもたちには、何もかもが新鮮だったようです。

3年生は社会科の授業で「農家の仕事」について学びます。

11月1日（金）、学校から遊歩道で5分程のところにある「杉田農園」さんに到着すると、まず始めに杉田賢太郎さんが畑を案内してくださいました。子どもたちは「広いね～！」「いろいろな野菜があるんだ」と、ほうれん草、ブロッコリー、大根、白菜…指を折りながら畑を見て回りました。杉田さんは、どんな野菜を育てているか一目でわかるように、野菜の名前の札を立てたり、いろいろな野菜のタネをたくさん用意したり、この授業のために準備をしてくださっていました。

その後、農家の仕事についてお話がありました。野菜の根やいらない部分で、野菜の栄養になる「堆肥」を作っていると聞いて、子どもたちはビックリ。質問にもひとつひとつていねいに答えてくださいました。

学校のすぐ近くの畑を実際に見て、農家の方から直接お話を聞くという体験を通して、子どもたちは教科書を読むだけでは学べない多くのことを学ぶことができ、同時に地域のことを知る機会になりました。

あとがき

今年度の途中からですが、就学予定児童保護者として学校運営委員会の一員にさせていただきました。

給田小学校には、4年生の娘がお世話になっておりますので、学校公開や水泳のボランティアなどで4年生の子どもたちとは顔見知りになれました。一方で、他学年の子どもたちとは私から挨拶をするだけという関係でした。しかし、学校運営委員になり、幼小交流の取材やサマースクールのお手伝いなど、他学年の子どもたちと言葉を交わす機会が増えたおかげで、公園や町中でも私だと認識してまずニッコリ微笑み、そのあと手を振ったり挨拶をしてくれたりするようになり、嬉しい限りです。

西住宅の私の住んでいる号棟には、『運営委員会通信』をお届けしているお宅があります。先日、除草作業の時に声をかけていただきました。

通信に載った私の顔を覚えていてくれる方も多く「あっ」と驚いた表情を見せた後に挨拶してくださる方もいます。

児童や地域の方とかかわっていくことで、学校運営委員としてだけでなく、コミュニティ・スクールに子どもを通わせる保護者としても、人と人との輪を広げられたらと思っています。

学校運営委員　林　智美

「学校運営委員会通信」に掲載されている写真（個人が特定できる）等を含む個人情報は、ご本人の承諾を得て掲載しています。